Community & Friend

2025 年 3 月号

有限会社アルファー
大阪府高槻市氷室町 4-13-3
吉田 清一郎

過去の月間通信は https://www.alphar-net.com/monthlymail.htm

平素は、弊社商品にお取り組み頂き、
まことに、ありがとうございます。
月間通信 3 月号をお送り致しました。
何卒、よろしくお願い致します。

オオカミの赤ちゃんが 5 匹『キュン　キュン』と泣いている。
『すぐ、おなかいっぱい食べさせてやるよ。・・・・』と、子供が身を横たえている。
『あーっ』と叫んでいるのが、若き時のシッダールタ。

毎年、母の誕生月の 4 月には、その想いを書いてきた。でも、昨年 3 月に亡くしたので、今年からはその 3 月に母の事を書くことにした。

その前に、私が師事している米国在中の女性からのメールに、やはりそのお母さんの話しが引用されていたので、許しを得て転載させてもらう。許しを得て、と言っているが、『転載させて』と書いただけで『諾』とも『否』とも言われていない。もっとも、その送られて来たメールは、VALENTINE DAY に Husband がバラを贈ってくれたと嬉しそうに報告してきたもの。愛らしいハートがあしらわれた包装がしてあると。

深紅のバラだ。彼女には似合いそう。
添えられている白の珠のような花の名は知らない。
で、その内容はこれ。
『先日、母が残してあった仏典の書物を久しぶりに書庫から出して読んでいると、そこに、地域主義について書いてありました。わたしが Community-ism という用語を創作して、解説などしてきましたが、な～んだ、仏法にすでに説いてあったのか、と、驚きました。
「 地を離れて、人なし、　人をはなれて、事なし。 」
地域主義とは、自らが住む地域の歴史、風土、風俗、環境心といったものをよく理解し、その上で、地域の興隆、発展、万栄のために、仏法を基調に平和と文化の推進をダイナミックに、展開してゆく事である。
と、母の自筆のメモにも書き残されていた。』

そう、彼女は流通コンサルタントで、ずうと、この地域主義 Community-ism について、これこそが、今、スーパーマーケット業態の進むべき道程ではないかと教えてくれた。ちょうど、私の重要な顧客に数値 Vision を提案して、その数値実現にこの地域主義を根幹に据える考えを提唱していると、彼女に伝えたから、それに応えるように、この見事なフレーズを送って来てくれた。

この引用部分の後、『食』に焦点を当て、地域住民の幸せを願う活動が、事業の発展に結びつく数式として成立する、との内容を付記してくれている。

私の母は、
『謙虚にして真理探求』
『誠実にして精進努力』
『親切にして相互協同』
と、色紙に達筆し、残している。
確かに母を想うと、その通りに生きていたように思うし、私もそのように育てられた。実家を離れて社会に出たとき、世間と母の教えのギャップに戸惑ったが、だからこそ貫くには相当の覚悟と強さが必要となった。
改めて二人の母親の自筆の内容を見れば、確かにふたつは繋がっていて、地域の豊かな暮らしは、このように成り立っていくのだろうと解る。

オオカミの赤子と、人間の赤子の、この先は覚えていないが、確か『水滸伝』『三国志』を読んで、この『ブッダ』を中学 2 年の時に読んだ。もちろん漫画で。漫画はおそらく江戸時代くらいから始まって、ずうと絶えることなく現在まで発展し、だからこそ今、世界に広がるアニメがあるのだろうと思う。先のふたつの中国物語から学んだ事は、『敵から敬意を受け、かつ愛される人間になる』だった。味方は常に裏切るものだ、って事の上に立つには、『敵にまわしたくない』って概念が必要で、そこに到達点の共有が乗っかるのだろうと思う。

『自らが住む地域の歴史、風土、風俗、環境心といったものをよく理解し』は、『地を離れて、人なし』という事なのだろうけど、このように言い切られてしまうと、なかなか言葉では言い尽くせない深さがあるような気がする。塊として、確かに在る。これを明らかにし、行動に移す時に『仏法』という学問にまで達する、とても解明しきれない複雑さが存在する。おそらくそれは、一人で体現できることではなく、かといって全員でもなく、ひたすら到達点の共有が、その方法論と方策の選定に、違いの許容範囲を広げるものだろうと思う。

この違いを受け入れる許容範囲の拡張が、人を人たらしめ、続く『人をはなれて、事なし』の受けに繋がるのだろうと思える。さすればそれは、地・地域の話しではなく、人の話であろう。人が事を為す場合に、地域を離れては其処に到達点は無い。何故なら『地域の興隆、発展、万栄のために、仏法を基調に平和と文化の推進をダイナミックに、展開してゆく事』は、人の暮らしの為故の事となるから。仏法はこんなに理屈っぽく書く事では無く、単純に彼女や私の母が残した一節、遺したみっつのポイントで充分だろうと思う。この三つは母の通った仏教女学校の綱領らしい。

少し余談になるが、長く気になっていた『十分』と『充分』の違いを定義づけ出来た。それは、『十二分』という言葉を内包できるか否かの違いで、これは文化(数値概念)の違いだろう。ついでに書くと『解脱』という言葉がある。検索すれば、『俗世間の束縛・迷い・苦しみからぬけ出し、悟りを開くこと』と、何とも俗っぽい解説が出て来たが、多分、違いの許容範囲を広げる事だろうと思う。私の子供時代は小学校から中学校に上がる時、男の子は全員変速機付きのサイクリング車を買ってもらっていた。私ももちろん欲しかったのだが、父固有の考えあっての故か買ってもらえなかった。他は我慢できても、これはどうしても買ってほしくって、珍しく拗ねていた。そうすると、2 歳上の兄が『お前、諦めろ。わしも買ってもらえなかったんやから』と私を諭した。兄が買ってもらっていないのに自分が買って貰える訳がないのに、当時は気づかなかった。
『到達点の共有』が第一義であるなら、そんな事に拘っていては、大義は遠退く。より本質的な喜びを得ようとすれば、如何に自分が余分な事に気を取られているかが分かる。子供時代の話しだけではなく、大人になって、更にこうしてこの先短くなっても同じこと。
母が亡くなった昨年の 3 月、明け方報せを聞いて、その後 1 時間ほどの睡眠の間に、夢の中で母はこの単純な事を私に悟らせてくれた。

有限会社アルファー　吉田清一郎